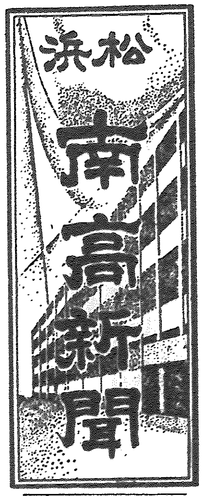


発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

校訓

最善を尽くそう

行事報告　青春奏づべし

成功したか？アラカルト方式

―二年研修旅行

去る十月二十二日から二十五日までの四日間、研修旅行が行われた。近畿・山陽・東北の三方面からの自由選択となり、また、すべてグループ別研修で今までとは違った試みで行われた。

古都を訪ねて　―近畿

近畿方面へは四十三班二百六十四人と、十二人の先生方が参加した。今年からの新しい試みとして三方面へのアラカルト方式となり、三つの中では最も多くの人たちが近畿方面を選んだ。

一日目の宿泊先は神戸だった。ポートランドへ行ったり、異人館めぐりをしたりと、初日のグループ別研修を楽しんだ。

二日目の研修は、残りの二日間の宿泊先である京都のホテルへの移動を兼ねて行われた。ホテルは神戸・京都共に二ケ所に分かれた。二、三、四日目は、京都・奈良・大阪方面をまわった。

二年になるとすぐに決めたグループで、夏休み前まで時刻表や地図、名所案内等と格闘しながら計画を立て、楽しみにしてきた旅行である。

神戸で異国情緒を味わい、京都・奈良で古代日本にタイムスリップし、大阪で大都市の空気を吸い過ごした四日間で、日本の歴史や文化を学び、またグループの仲も一層深まった旅行であった。

仁和寺より双ケ丘方面を望む

原爆の惨状を知る　―山陽

山陽方面には十七班、総勢一〇八名が訪れた。

広島では、やはり原爆ドームに行った班が多かった。平和記念資料館には、焼けた弁当、熱でぐにゃぐにゃに曲がった自転車、被爆時間である八時十五分で止まっている時計など、当時の様子が生々しく展示されていた。また、原爆の恐ろしさを改めて知った。

日本三景の一つとして知られている厳島神社に行く予定の班もあったが、台風による破損で多くの班が不本意ながら計画を変更する結果となってしまった。

その他、広島城や縮景園を訪れた班もあった。

岡山では、日本三名園の一つである後楽園に行った班が多かった。後楽園は、築山・池・芝生・曲水・園路・植込み等が優雅に配置され、上品に造られていて、とても美しかった。

オリエント美術館には、世界史で学んだものが多くあり、興味を持って見ることができた。

また、美観地区や県立博物館では地域文化にふれることができた。

城跡めぐり…　―東北

東北地方へは十四班九十四人と五人の引率の先生方での出発となった。三方面の中では、選択した人が一番少なかった東北地方だが、人数が少ない分テキパキとすばやい行動をとることができたようだ。

一、二日目は松島のホテル、三日目は会津若松のホテルに宿泊した。松島では松島水族館などのほか、中尊寺や東照宮、そしてあの伊達政宗が築城し、近代では石川啄木が歌を詠んだ所として有名な青葉城（仙台城）など、歴史や情緒あふれる旧跡をまわった班も多かった。

三日目はグループ研修ではなく、団体行動をとった。まず、バスにゆられて浄土平へ行き、それから五色沼へ行って、みんなでハイキングを楽しんだ。

最終日は残念ながら雨が降ってしまったが、とても楽しい四日間を過ごせたようだ。

三方面の中ではグループ研修の時間が一番少なかったわけだが、ほかの班の人とも仲良くなれる機会が多く、たいへん充実した研修旅行だったと言えるだろう。

飛べ!!水の中へ

―水泳大会

去る九月五日（木）、市営江ノ島プールで水泳大会が行われた。日頃の南高生の行いがよいせいか？青く晴れわたった絶好の水泳日和となった。

今年の水泳大会は一年生の活躍が目立ち、男女共に総合はもちろん、男子五十メートル自由型や女子五十メートル平泳ぎをはじめ、全十二種目中、七種目で一位を獲得した。

種目には出場出来ない水泳部の部員も、最後のデモンストレーションで素晴らしい泳ぎぶりを模範披露。みんなも拍手、声援を送っていた。

結果

男子優勝	12HR
二位	20HR
三位	26HR
女子優勝	1F3、4
二位	2F2
三位	2F1

論説

学校五日制について

欧米などの先進国の学校は、週五日制である。また、日本でも大企業を中心に、週休二日制が増えてきている。

そんななかで、文部省は来年度の二学期から月一回学校五日制を実施することを決定した。また、日教組（日本教職員組合）は、隔週五日制を提案している。そこで、学校五日制について考えてみたい。

なぜ、学校五日制が実施されるのだろうか。

いまの子どもは、受験等のために学校の勉強と学習塾の勉強に追われ、生活体験的な遊びを知らずに育ちつつあるといわれている。また、親子・家族のふれあいの時間も減少してきている。

そんな現代の子どもに、学校教育では〝ゆとりある生活と授業〟が求められている。社会人に対しても労働時間の短縮による〝ゆとりのある生活〟が期待され、豊かな心を育てる生涯学習社会作りが推進されている。社会における週休二日制は働き過ぎの日本人に豊かな心と生活を創りだす時間と場を提供するためのものである。

これは、学校五日制についてもいえることで、いま子どもにとって必要なことは〝子供が自由にできる時間＝ゆとりの時間〟を持つことができるようになることである。親と子がいっしょになって遊びや家事労働にあたり、家族のふれあいを持てる場と時間を創り出す努力が必要とされている。

このように多くのことを期待されている学校五日制であるが、不安をいだいている保護者もいる。その理由は、学力の低下や学習塾に行く時間が増えたり、非行化などである。

文部省は学校五日制の研究校を設けているが、その多くは月一回と月二回の実施である。これらの学校と保護者に対して、文部省が八月に実施した調査によると、賛成の保護者が五割、条件つき賛成が三割で反対は二割弱であった。

この結果から、学校五日制実施前には学力の低下や学習塾へ行くなどの不安を抱き、反対していた保護者が五割いたのだが、一年間の試行後にはその多くが五日制導入賛成にまわったことがわかり、このことは興味深いことである。

保護者は〝自主性を育てる上で有効〟〝親子のふれあいが深まった〟という回答をしている。学校五日制が子どもにゆとりの時間を与えることができるのは確かなようだ。

先日ある新聞社が行ったアンケートによると、子どもたちも土曜日が休みになることについて、約八割が「賛成」で、二割弱が「反対」、残りが「どちらでもない」、「わからない」と答えている。

アンケートの中に「他の日の授業がふえる」、「生活のリズムが狂う」、「勉強が遅れる」、「塾に行く時間が増加する」などの反対の意見もあった。これらの意見も無視してしまってはいけないだろう。

来年度の二学期から月一回ではあるが実施されることになった学校五日制である。うまく活用して、普段なかなか持つことのむずかしい〝ゆとりの時間〟を持てるようにしたいものである。

一層深まった輪和輪和輪和輪…

一年生山の村

去る一月二十一日（月）から二十三日（水）までの三日間、一年生の宿泊訓練が行われた。富士山麓〝山の村〟は開村されてまだ間もないので、木造りの多目的ホールも宿泊棟も新しくきれいである。特に宿泊棟は一つ一つの造りや屋根の色が異なりとてもよかった。三日間雨は降らず、鹿の子模様の山頂を望むことができた。

また服装は自由であり、普段は制服である友達の私服姿を見ることはよかったのではないかと思う。

山の村に着き、入所式が終わるとすぐにクラス別の行動に入った。オリエンテーションや自然観察、野外炊飯、竹細工など各クラス思い思いの計画を実行していた。

日頃の生活の中ではなかなか体験できない自然観察やハイキング等で自然に親しむことができたようだ。

テレビもラジオもない自然の中で級友と過ごした三日間。クラスの団結力は強まり、宿泊訓練ということで多くを学んだであろう。そして、学校では見ることができない友人の一面を発見したであろう。

宿泊訓練についての感想を聞いてみた。

――宿泊棟などの施設はどうでしたか。

木造のわりにきれいで新しくよかったです。

――一日の予定はどんな具合でしたか。

朝は六時に起床で、その後はクラスで決めたことをやりました。消灯時間を過ぎても、つい友達と話をしていたので寝たのはかなり遅かったです。

――HRでの活動はどうでしたか。

オリエンテーションや野外炊飯などは計画どおりにできてよかったです。ただ、天体観測は曇りのためにできませんでした。

――楽しかったことは何ですか。

友達と夜遅くまで語りあったことです。普段はできないことなのでとても楽しかったです。

――失敗したことはありますか。

宿泊棟にバスタオルを忘れてしまったことです。

――全体の感想を聞かせてください。

緑がとても多く空気がきれいで寒かったです。でも、一週間ぐらいここにいたいなあと思いました。みんなで協力して計画どおり実行でき、クラスが一つの輪になった気がしました。

ぶっつけ本番、盛り上がり今一歩

―体育大会

去る十月十四日（月）、恒例の体育大会が行われた。今年は台風による連日の雨で予備日までつぶれ、実施が危ぶまれたが、順延二度目にして曇り空のもとではあるが無事開催された。

最初のうちは地味な競技が多く、やや盛り上がりに欠けたが、HR対抗種目になるとクラス一丸となって応援し、次第に盛り上がり始めた。あまりにも熱中しすぎて怪我人が出た種目もあったが、大事に至らなくてよかった。しかし、全体的に見ると、やはり盛り上がりに欠けていたように思われる。生徒は受身的ではなく、もっと積極的に参加すべきだと思う。そのためにももっと早くから準備をし、応援合戦や仮装行列等のレク的種目も成立させるべきであろう。

結果

男子優勝	第一学年	11HR
	第二学年	25HR
	第三学年	34HR
女子優勝	第一学年	1F2
	第二学年	2F2
	第三学年	3F

音楽との出会い

―芸術鑑賞

去る十一月十五日（金）に、芸術鑑賞教室が開かれた。今年は、音楽鑑賞だった。

坂野多巳子さんのソプラノ（女声の最高音域）による「かやの木山の」から始まり、渡部成義さんのバリトン（ティナーとバスの中間音域）、杉山守さんのフルート、川染雅嗣さんのピアノと次々に演奏が行われた。川染さんは始めから、最後の独奏まで、ずっと演奏していた。

坂野さんと渡部さんによるモーツァルトの『魔笛』からの「パ・パ・パ」は、牧瀬里穂のバナップのCMを思い出させたこともあり、会場を沸かせた。また、渡辺さんのバリトンと杉山さんのフルート、川染さんのピアノがうまく調和していた「ふるさとの」もよかったし、どの演奏もすばらしいものだった。

ところで、このコンサートの進行もしてくれたバリトンの渡部成義さんは浜松出身の声楽家であり、佐鳴学園の音楽科から東京芸術大学に入学し、現在は千葉大学の助教授をされている。

普段あまり聴くことのない声楽を楽しむことができた芸術鑑賞教室であった。

雨の中、大健闘

―マラソン大会

十一月二十七日（水）、校内マラソン大会が行われた。例年どおり男子は10km、女子は6kmのコースを走った。天候が悪く、雨がどしゃぶりに降る中、男子八百六十三人、女子四百五十二人が完走しきった。

体育の授業で練習をつんだおかげか、不安げだったスタート前にくらべ、走り終わった時の顔はみな満足そうであった。

三年生の健闘が目立ったマラソン大会、来年も期待したい。

＝上位入賞者＝

個人男子の部

一位	吉村　公臣	(33)	36分00
二位	野中　信彰	(22)	36分18
三位	粟野　健	(29)	36分21
四位	富山　岳郁	(20)	36分29

個人女子の部

一位	山内　真琴	(22)	26分13
二位	山本さおり	(37)	26分43
三位	服遺　香織	(15)	27分05
四位	中村　珠美	(24)	27分42

遠州灘

〝世界のホンダ〟の創始者であり、本田技研工業最高顧問であった本田宗一郎さんが今年の八月五日、順天堂大学医学部付属順天堂病院で肝不全のため死去した。八十四歳だった。

明治三十九年、磐田郡光明村（現在の天竜市）に、鍛冶屋の長男として生まれた。小さなころから機械いじりが大好きであった。また、好奇心、自由奔放な発想、行動力も持ち合わせていた。だが、小学校の成績は、芳しいものではなかったようだ。〝高等小学校卒〟の自動車王は、二十二歳の時、浜松市に自動車修理工場を設立。技術者としてだけではなく、デザイナーとしても活躍して、戦後間もなく自動車用補助エンジンを手掛け、このヒットを足がかりに、昭和二十三年九月、本田技研工業を創業した。

その後、二輪分野で次々とヒットを飛ばし、昭和三十六年英国でのオートバイレースでホンダ車が圧勝。欧米への輸出を伸ばし世界一のオートバイ・メーカーホンダとなった。また、東京オリンピック前年の昭和三十八年には、四輪部門へも進出した。営業、販売を一手に引き受けた藤沢延夫さん（故人、元同社最高顧問）とともに、世界のホンダを築き上げた。身内を経営陣につけることなく、昭和四十八年、六十六歳で社長を退任した。晩年、本田さんは自らを育んだ郷土、天竜市を訪れては好んで自然のスケッチをしていた。

また、今年の七月四日には、戦前働きながら学んだ静岡大学工学部（旧浜松高等工業学校）の創立七十周年記念事業後援会長にも選ばれていた。

本田さんの意志で葬儀、社葬は行われず、親族と親しい友人だけで献花式だけが行われた。

本田氏のご冥福をお祈りする。

人を語る

増田乃里先生

目的をもって……

―アメリカに留学して思ったこと―

皆さんの中で、海外に留学をしたいと思っている人は多いだろう。留学と一口に言っても、経済的な面、生活習慣の違い、そして何より精神的な面で難しいことが多いのではないだろうか。今回は、アメリカ留学を体験なさった増田美乃里先生に、留学についていろいろお話を伺った。

増田先生は大学四年の八月から、次の五月までの八ケ月間、北アイオワ大学に留学され、キャンパスの寮で生活された。

留学の動機を先生は、「私は英語の教員になりたいという目的があって、英語を学ぶことはもちろん、日本を客観的に見たいと思ったからです。目的意識を持つことは、とても大事なことですよ。」と言われた。

確かに、なぜ留学をするのかという自分自身の目的を、しっかり持って行かなければならないだろう。日本の大学からは、勉強第一というイメージはあまりわかないが、アメリカの大学は勉強第一なのだそうだ。学びやすい環境も整っているし、空き時間には学生たちは、図書館などで勉強に取り組む。そうい[illegible]まった[illegible]そういった人も少なくはないようだ。

しかし、自分の志すものがしっかりしていれば、どんな障害にも立ち向かえるのだろう。

留学という体験から学べることは勉強だけではない。日本と外国とでは、人々の雰囲気や習慣など、いろいろ違った面がある。例えばアメリカでは、ホームステイ先の家に行くと台所の隅まで案内されて、後は好きなように使って下さいと言われる。家族と同じ扱いだ。日本だったら、どうしてもお客様意識が抜[illegible]も学べるし、外国で[illegible]その国の文化、風習に触れることで、自分の国をより理解することができるとはよく言われる事である。増田先生は、「勉強に対する態度や環境が日本とは違うこと、それから、他の国の人たちの考え方が自分とはまた違っていることに気付きました」とおっしゃった。英語を話せるようになるとか、発音が上手くなるとか、そういう事よりも、英語で何を伝えたいか、話そうとする内容や自分の考えを表現できる事の方が大切だと先生はおっしゃった。

最後に、海外に留学することを目指している人たちに、増田先生からアドバイスを一言、「目的意識をもって行くことが大切です」

正しいメガネでしあわせを―
メガネの吉田屋
広小路本店　浜松駅前広小路通り　☎453-1188(代)
旭町店　浜松・旭町（浜松郵便局前）　☎454-1018
高台店　浜松・幸一丁目（ユニー前）　☎473-8118

購買委員会
営業時間
12:50～13:10
15:40～16:00

冬は、ここでキメる。
'91冬期講習会　浜松河合塾
申込受付中
■大学受験科(高3・高卒生)
■高校グリーンコース(高1・2生)
河合塾

各種受験・記念写真
スタジオ・駐車場完備
SSS 清水写真館
二俣街道　中郡歩道橋横　TEL 434―0760
FAX 435―3566

贈りものに
全国共通図書券
教科書・新刊書籍・雑誌
参考書・各専門図書・地図
文泉堂書店
〒430 浜松市連尺町314-1　TEL454-6358代表

谷島屋書店
YAJIMAYA
本店　〒430 浜松市連尺町309-1　☎〈053〉453-9121代

小さな一歩大きな歩み

社会参加活動報告

紙に集まった二つの心

—高校総体の表彰状づくり—

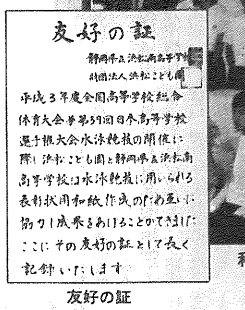
今年の八月に高校総体が静岡で開催された。この大会のために県内の高校生は、「一人一役運動」という事で何かの形で大会に携り、それぞれに活躍した。

わが南高では「浜松こども園」に協力して水泳部門の表彰状にするための和紙を作った。当初は大会の静岡市実行委員会からこども園に、この和紙作りの依頼があったのだが、園で作業ができるのは数人だけだった。そこでわが校がこれに協力させてもらったといいわけだ。

山から切り出したコウゾとミツマタの原木を蒸し、乾燥させた皮をつぶしてすき上げる、という伝統技術はこども園の荒岡園長直伝のものだ。この作業を体験した人は多いことだろう。木の皮が固くてなかなか削る事ができないなどの苦労もあったそうだが、その反面、この作業を通してまた少し自分が成長したような気がしたという声もあった。

そうして出来上がった二つの心が託されている和紙の表彰状は全部で五百五十枚。大会で、多くの水泳選手達の手に渡っていった。

わが校はこの体験を通して高校総体に貢献しただけでなく、ボランティアに対する関心を高め、また思いやりの心を育てる事もできた。ボランティアを知るための良い機会だったといえるのではないだろうか。



友好の証

静岡県立浜松南高等学校

財団法人浜松こども園

平成3年度全国高等学校総合体育大会兼第59回日本高等学校選手権大会水泳競技の開催に際し浜松こども園と静岡県立浜松南高等学校は水泳競技に用いられる表彰状用和紙作成のため互いに協力し成果をあげることができましたここにその友好の証として長く記録いたします

友好の証

和紙の贈呈式（7月9日　波濤館）

もう一つの「地球」を南高で製作

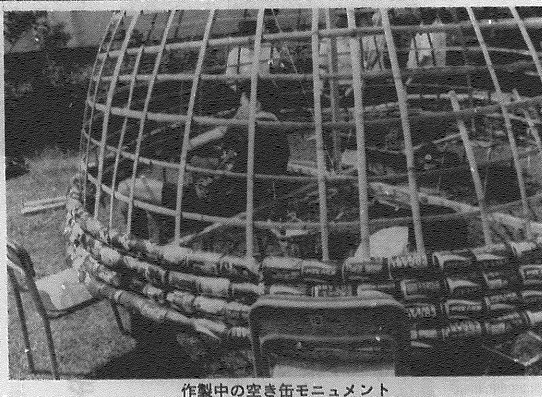
—空き缶モニュメント—

浜松は今年、市制八十周年を迎えた。そこでわが校はその記念に夏休みを利用して空き缶のモニュメントを作った。

このモニュメントは地球を形どったもので、空き缶の素材の色彩を生かして地球環境、文明、リサイクルがイメージされている直径三メートルという大きなものだ。出来上がったモニュメントは夏休みの終わりから駅前のフォルテに展示され、「広報はままつ」でも紹介された。

このモニュメントを作ったのは一、二年の実行委員。炎天下での作業はとても暑く、またこの地球の芯となる竹を組み合わせる時に使った針金がよくひっかかったり、出来上がった半球どうしをいざくっつけようとするとうまくつかなかったりして苦労は多かったようだ。しかし普段はあまり交流のない他学年の人達とも協力し合い楽しく作業ができた事や、完成した時の満足感など、それなりに得たものがあったようだ。

わが校の空缶製作は波濤祭に登場し、雰囲気を盛り上げてくれているだけでなく、市民からも認められている。これからも、これをぜひ良い伝統としてうけつぎ、より発展させていきたいものだ。



作製中の空き缶モニュメント

できばえハイレベルな一年スピーチコンテスト

去る十月三日（木）一年英語スピーチコンテストが行われた。これは夏休みの課題として全員提出した英語感想文の中から、各クラスの代表者一人ずつが出場し、その英文を発表したもので、予想以上にすばらしく、それぞれクラスの代表にふさわしい熱のこもったスピーチが展開された。

初めは、スピーチコンテストに関心を持っていた人は少なかったようだ。当日の集合状態もよかったとは言えず、ムダ話が多かった。（これは、この時に限ったことではなく、今年の一年生の特徴らしい。）

しかし、スピーチが始まるとムダ話はおさまり、どの生徒も発表者に注目し始めた。そして、多くの人たちから驚きと感激の声が発せられた。それは、そのスピーチが自分たちの予想をはるかに上まわるものであったからで、スピーチコンテストを軽視したムードは一変し、多くの人たちから、「ショックを受けた」「感動した」という感想が寄せられた。

さてもうひとつ、スピーチの中身の方であるが、これについては、「全くわからなかった」という生徒が圧倒的多数で、内容を理解できたという生徒は少数であったようだ。もっとも、発表した十人ともすばらしい内容であったことには違いないが。

生徒が驚いたこのスピーチコンテストは、先生方もまた、そうとうびっくりされたようだ。大沢先生は次のようにおっしゃった。

「思っていた以上に十人ともに、発音、内容、それに文章の形がよかった。先生方もとても感激されていました。最初、こういったことは男子は嫌がって参加してくれないのではないかと思ったけど、そんな心配もなく、引き受けただけでなく、非常に意欲的にやってくれて最終的には十人中六人が男子になってしまった。英語科でトロフィーも買って、これからも続けていきたいと思う。あとは内容の面でもっと自分の意見を入れて、対外的にも通用するものにしたいと思っています」

第一位となった西川弓枝(10)さんは、「文章を作るときに最後のまとめがうまくできず、ローズ先生に手伝ってもらいました。文章が出来上がってからも、放課後にスピーチの練習をしたりと大変なことが多かったです。それだけに、無事にスピーチを終えただけでなく、優勝もできて、とてもうれしく思っています」と喜びの声を述べていた。

鈴木美咲さん　西河弓枝さん　村上智晶さん　ローズ先生
(17)　(10)　(13)

AET　ローズ先生はニューヨーカー

ローズ先生がこの九月一日より我が浜松南高校に赴任された。先生はニューヨーク出身でコーネル大学を卒業され、日本まで [illegible] ニューヨークメッツです。

——趣味は何ですか？

読書やスケートに旅行、スポーツを見たりやったりすることや新しい事に挑戦することです。

——高校と大学の時に所属していた部活は何ですか？

高校の時はソフトボールとキックライン（ダンスやチアガールに似ている）をやっていました。大学の時はデザインと社会活動グループです。

——日本については？

私は本当に日本人と会ったり話したりすることを楽しんでいます。私は近所に住む素敵な人達と会いました。彼らは少しの英語を話し、私は少しの日本語を話しますが、私達は大きな友情がありお互い楽しいひとときを過ごしています。

私は生け花、日本舞踊のような日本の伝統的な芸術を学ぶことを楽しみにしています。先週の月曜日の剣道部の見学はとても楽しかったです。

皆さん、職員室に立ち寄ってHello!と言って下さい。

松井先生の英国留学体験記

美しく古くゆとりの国

七月二十六日、成田空港は海外への旅行者で溢れていた。長い列の中、遅々として捗らない出国手続に苛々が募る。十二時二十分発予定のJAL四〇一便は、四十分遅れて爆音と共に離陸。機は上昇を続け、関東平野を望見しながら、雲の中に入っていく。外は真っ白で、主翼の文字が判別できない程だ。機は更に高度を上げ、今度は、果てしなく続く白い雲海の上に出る。青空の下、雲は滑稽な形をしていて微笑みを誘う。十三時四十五分、日本海上空。紺碧の海と無数の白波が絵のように美しい。

十四時五十分、ハバロフスク上空。ほどなく、シベリア高原上空に入っていく。広大な針葉樹の天然林が、まるで青かびのようだ。深い渓谷が、山腹に数多くの筋を作っている。至る所に大小の湖が見える。土色の大河が、大きな緑の中洲を作りながら、蛇のように悠々と流れている。更に、幾つかの細流が、迷路のように交わりながら、大河に注いでいる。集落、道路、橋の姿は全く見えない。この景色が数時間続く。進行を阻む山と河と湖。人跡稀な雄大な自然。これがシベリアなのだ。

十八時三十五分、材木らしき物が河に浮かんでいるのが見える。材木の集積地であろう。十九時三分、角質化した人肌のような低地の中を、道路が幾筋か真直ぐ伸びている。地面は茶色で未舗装のようだ。所々に、コンクリート製らしき建物群が散見する。この辺りは、開発の手がかなり及んでいるようだ。

二十時十分、褐色の肌をした峨々たる山の連なりが見える。ウラル山脈だ。その後は、広漠たる平原が続く。河が数多く流れている。あちこちに集落がある。二十二時二十分、バルト海上空。島々が点在するフィヨルドの海。船が、白い航跡を残して、島々の間を縫っていく。機は、大平原を遠望しながら、ドイツ、オランダの海岸線に沿って飛んでいく。青い海に浮かぶ島々や様々な形の入江に、目を奪われる。

二十三時五十五分、イギリス海峡上空。機は海峡をあっという間に横切って、イギリス上空に入る。きれいに区画された畑や住宅地が見える。〇時四十一分（日本との時差は八時間、現地時間で七月二十六日十六時四十一分）、無事ヒースロー空港に着陸。何と、空港の芝生の上を数多くの兎が駆けていた。

入国審査を難無く終え、荷物を受け取り、税関検査を受けることなく、出迎えのコーチに乗り込みホテルに向う。途中、レンガ造りの美しい街並み、大理石の古い建物、広大な公園、赤い直方体の電話ボックス、オースチンのタクシー、ダブルデッカーなど、初めて訪れるイギリスの風景に、心を躍らせる。

五十六日間の英国研修は、このようにして始まった。最初の五週間は、ロンドンから東へ九十キロ程離れたコルチェスターという街にある大学で、英語関係のことだけでなく、英国の文化、歴史、社会、文学、教育など、多岐にわたって勉強した。

大学での研修が終了すると、名所旧跡を訪れながら、スコットランドに向けて北へ北へと九日間のバス旅行に出た。最後の一週間は、ランカスターの家庭に滞在しながら、地元の学校を訪問した。この間、実に様々な事を学ぶことが出来た。以下に、私が実見した事柄のいくつかを、思い出すままに紹介する。

英国の国土面積は日本の約三分の二。森林面積は日本の約十分の一で、農用地面積は日本の約五倍である。英国には険しい山は無く、北部に数百メートル程度の小高い山がいくつかあるだけである。そして、森林と呼べるものがあるのは北部の国立公園くらいのものである。都市には日本のような過密状態はほとんど見られず、一旦街の外れに出ると、見渡す限り広大な放牧場と畑が拡がっている。英国の大地は、東部では緩やかに、そして北部では大きく波打つように起伏しているが、そんな事はお構いなし。利用されていない土地は無い。天然の草原、荒野ですら放牧に利用されている。目にするのは人の姿よりも羊と牛であり、緑の牧草と黄金色の麦である。行く前は大工業国だと思っていた英国は、実際には大農業国ではなかろうかという思いに駆られた。

よく英国の気候は変りやすいと言われるが、我々が滞在した夏は、例年になく晴天続きであった。八月中旬までは、朝晩適度に涼しく、日中もうっすらと汗ばむ程でしかなかった。そして、八月下旬になると、日中でもセーターやトレーナーが必要になった。九月十一日は、薄ら寒く空には鉛色の雲が厚く垂れ籠めていて、大変陰鬱な天気だった。ホストマザーによれば、典型的な秋の天気とのこと。こんな天気が四月の初旬まで続くという。陰々として荒涼たる厳冬の情景は、「嵐ケ丘」を読めば想像するに難くない。ピルグリムファーザーズが乗った船が「メイフラワー」と名付けられたのも、明るくて快適な六月の花嫁を「ジュンブライド」と呼んで祝福するのも、むべなるかなである。

何と多くの名所旧跡を訪れたことか。国会議事堂、ウエストミンスター寺院、タワーブリッジ、ロンドン塔、オックスフォード、ケンブリッジ、ウィンザー城、イートン校、シェークスピアのストラットフォード・アポン・エイボン、サー・ヲルター・スコット邸、ハドリアンヲール、ダラム大聖堂、ブロンテのハワース、ヨーク、エディンバラ、ワーズワース・ダヴコッテージ、湖水地方等々、枚挙にいとまが無い。どこへ行っても美しい自然と、中世またはローマ時代に遡る古い歴史が大切に保存されている。英国は広く国民から寄金を募って自然は史跡を保存・管理・公開していこうとするナショナル・トラスト運動が大変盛んな国である。他民族の侵略、国内の抗争、戦争、火災、風雪などのために損害を受け破壊された史跡が、莫大な費用と労力を払って元通りに修復復元されている。また、豊かな自然の景観や古い街の佇まいを維持するため大変厳しい建築制限がある。そして、ほとんどどの街も旅行案内所があり、どの名所旧跡にも日本語を含めて数ケ国語で書かれた案内書がある。英国各地を訪れる度に、その底力と懐の深さに圧倒された。

一割の人々が九割の土地とお金を所有していると言われる英国は、階級意識が強い社会である。王室はあちこちに広大な土地を有しているという。一代限りだが、貴族の称号がお金で買えるという。階級により、語彙やスポーツの好みが異なっている。かつては階級は三つであったが、近年は労働者階級の下にホームレスなどの「アンダークラス」が存在するという。街頭や地下鉄駅構内に物乞いやアルコール中毒者の姿がよく見られる。経済の低迷のためか、あちこちに福祉の国・英国の社会矛盾が露呈している。EC統合後の英国の社会状況は更に悪化しないかと憂慮される。

よく英国人は「控え目」「冷淡」などと非難されるが、私が接した人々は皆親切で礼儀正しかった。旅行者として、頻繁に道を尋ねたが、その都度親切に教えてくれた。顔が合う度に、「おはよう」「こんにちは」とスモールトークを投げてくれる。最も印象深かったのは彼等の生活におけるゆとりである。職場は週休二日で、勤務時間が終われば真直ぐ家に帰り、家族と一緒にゆったりと過ごす。買い物などの際は、列の中で辛抱強く順番を待つ。日曜日の街は、レストラン、パブ、映画館以外の店は閉まっていて、通りは閑散としている。人々は自宅の庭で日光浴をしたり、夫婦で公園を散歩したり、趣味を追求したりして悠々と豊かな休日を過ごす。苛々しながらあくせくと生活する自分を恥じ入る思いがした。

振り返って思うに、本当にはく動いたものだ。動くことが勉強だと思い、一日に何キロも歩いた。歩いて、観察し、そして考えた。日常の世界から遠く離れて、自分の目で未知の物や異質の物を知り、世界を広げていく。本当に旅はいいものだ。

部活報告

男子バレー県大会初優勝

サッカーベスト16初進出

簿記部、珠算部東海大会へ

柔道部　は県高校新人大会に出場した。二年生の部では江之島と、一年生の部では袋井と対戦し、いずれも敗退してしまった。

卓球部　は全日本卓球選手権ジュニアの部に出場し、宗田享紀(25)、栗田真武(28)が県大会に勝ち進んだが、栗田真武が一回戦で、宗田享紀は二回戦で敗退した。また、新人戦県西部予選団体の部に出場し、九位で県大会出場を決めた。県大会では、一回戦は三－二で勝利したが、二回戦は二－三で接戦の末、ベスト8入りを逃してしまった。

サッカー部　は、全国高校サッカー選手権県大会に出場した。一次トーナメントは一回戦で小笠農を九－〇、二回戦、御殿場南を三－二の接戦で下した。三回戦は庵原に〇－〇の後、PK戦を二－〇で勝利し、創部以来初のベスト16、二次リーグ進出を決めた。二次リーグの初戦は、総体の覇者清水東と対戦し、〇－七の大差で敗れてしまった。続く第二戦の静岡市立戦も二－三と接戦のすえ、惜敗した。もう後がない第三戦、静岡商戦では〇－〇と引き分けてしまい、決勝トーナメント進出はならなかった。また、浜松市スポーツ祭りでは一回戦は四－二で浜松工を、二回戦は二－〇で興誠を下したが、準決勝は一－一の後、PK戦に持ち込んだが、三－四と浜松湖東に惜敗した。

剣道部　は、新人戦に出場した。個人戦男子は全員初戦敗退、女子は二人が二回戦敗退した。団体戦は、男女共に初戦敗退。

男子バレーボール部　は、県西部バレーボール選手権大会に出場した。決勝トーナメントは決勝で浜松西をセットカウント二－〇で下し、全試合ストレート勝ちで優勝した。県大会は、一回戦は橘をセットカウント二－〇で、二回戦は韮山を二－〇で、準々決勝は藤枝東を二－〇で下して準決勝へ進出した。準決勝と決勝は同日行われ、まず、下田南と対戦した準決勝は、第一セットを15－12、第二セットを15－9で取り、二－〇で勝利した。決勝は静岡西と対戦し、第一セットは準決勝の勢いをそのまま持ち込んで、15－3で先取した。第二セットは静岡西が追い上げ、15－13の接戦で取り、二－〇とストレートで下した。結局県大会も全試合ストレート勝ちで、みごとに初優勝を飾った。

女子テニス部　は、県高校秋季体育大会西部予選に出場した。学校対抗戦は、一回戦で佐久間に一－二で敗れた。ダブルスは、牧沢志保(27)、田辺季美代(26)組がベスト16に入った。シングルスは、成島久美子(15)と牧沢志保がベスト32に入った。

男子テニス部　は、新人戦西部大会に出場した。団体戦は準決勝で浜松北に〇－二で敗れたものの、三位決定戦で二－一と引佐を下した。ダブルスは、山田享史(22)、大幡峰義(26)組が十一位決定戦に六－四で勝ち、県大会出場を決めた。シングルスは、山田享史が五位決定戦に四－六で敗れたものの、西部六位で県大会出場を決めた。県大会は、団体戦は、二回戦で静岡東を三－〇と下した。三回戦で日大三島に〇－二と敗れたものの、ベスト8入りを果たした。ダブルスは山田享史、大幡峰義組が一－六で敗れてしまった。シングルスは、山田享史が二回戦で六－七と接戦の末、敗れてしまった。

女子バレーボール部　は、県高校バレーボール選手権大会に出場し、一回戦で浜松江之島にセットカウント〇－二で敗れてしまった。

男子バスケットボール部　は、選抜大会西部地区予選に出場した。一回戦は浜松日体を八十一－三十五で下したが、二回戦は浜松工に四十一－五十六で敗退した。その後、引佐に勝利、袋井に敗退、常葉菊川に勝利し、十一位となり、県大会出場はならなかった。

女子バスケットボール部　は、選抜大会西部地区予選に出場した。一回戦は聖隷を百三十五－三十五で下したが、二回戦は浜松江之島に四十一－四十二と惜敗した。その後、袋井商を五十七－五十三で、掛川東を七十八－三十一で、湖西を七十一－五十四で下し、県大会出場を決めた。県大会は、一回戦で沼津学園と対戦し、三十二－五十三で敗れてしまった。

男子ソフトボール部　は、中日本総合ソフトボール大会に出場し、二回戦で同朋に〇－六と敗退した。また、県新人大会に出場し、一回戦で静岡北に〇－三で惜敗した。

女子ソフトボール部　は、団体女子ソフトボール県予戦に出場し、一回戦で大仁に八－十五で敗れてしまった。また、新人大会西部予選に出場した。一回戦で浜北西に一－十四で敗退し、敗者復活戦も誠心に〇－十一で敗れてしまった。

男子ハンドボール部　は、県高校選手権大会に出場した。一回戦は修善寺工を十九－六で、二回戦は御殿場を二十一－四で、三回戦は浜松湖東を二十九－十二で、準決勝は清水東を三十三－十二で下し決勝に進出した。決勝は清水商と対戦し接戦の末、十六－十九で惜敗し準優勝に終わった。

女子ハンドボール部　は、県高校選手権大会に出場し、小山に三－十七と敗退した。

陸上部　は、新人戦県大会に出場し、四百Mリレーが四十二秒七七で六位、走幅跳の大橋裕史(26)が七M三〇で一位となった。また、高校駅伝県大会に出場し、六十校中十八位だった。

水泳部　は、県高校新人大会に出場し、男子四百Mリレーが十一位、四百Mメドレーリレーが十一位、百、二百M背泳の小川崇雄(25)が共に九位となった。

野球部　は、新人戦に出場した。一回戦は聖隷を十五－十一と下したが、二回戦で掛川西に〇－十一と敗れ、敗者復活戦にまわった。二回戦は磐田農を二－一で下したが、三回戦で菊川に〇－九と敗れてしまった。

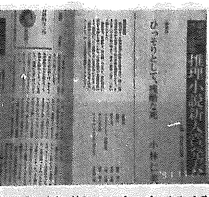
なお、文化部でも**簿記部**の天野陽子(37)、小出佳織(37)が東海大会出場。**珠算部**の豊田悦江(38)、高森瑞穂(39)、鈴木尋己(33)が東海大会に出場し、豊田悦江が佳良賞に入賞した。**カルタ部**が県選手権で三位、**吹奏楽部**は西部大会小編成の部で八位となった。**将棋部**は野中敏邦(28)が西部新人大会で十位となり、県大会に出場した。

校内トピックス

OGから推理小説作家誕生

わが南高を卒業した先輩、小林仁美さんが文芸春秋社の雑誌「オール読物」の第三十回推理小説新人賞を獲得し、推理作家としてデビューした。

受賞作は『ひっそりとして、残酷な死』。七人を毒殺した事件の死刑囚、首相秘書官などがからんでくる遺産相続をめぐる物語だ。この作品は会社勤めの合間に取材に駆け回り、だれのアドバイスも受けずに独力で書き上げたものだという。それだけに独自のアイデアがよく生かされていて、飽きさせない内容だ。



「大胆なアイデアが持ちこまれ、精一杯物語を多彩にしている。これからが大いに面白い話を書いてくれそう」とは夏樹静子氏の選評。また、趣向が凝らされていることも買われた。現在は次の作品に取り組んでいるという。よりリアルで大胆なものを期待したい。

宅八郎の知られざる母校

今、世間を騒がせているあのお宅評論家の宅八郎が、わが校出身だということは事実だった。宅八郎は確かにこの南高校で高校時代を過ごしたのだ。

彼は小さい頃からアニメが好きで、高校に入学すると同時に漫画研究同好会に所属。漫研機関紙を創刊し始めたり、文化展でアニメの研究発表をしたり、浜松東映を一日借り切って上映会を主催したりとかなり活発な活動をしていた。しかし、熱心になりすぎたあまりにトラブルを起こして、教員や生徒会などともめた事も多かったようだ。

こんな彼にも母校の教師を目指した時があった。でも、申し込みの手紙の内容が失礼すぎたために断られてしまったという。しかし、もしも本当に彼がわが校の教師となっていたら……？

交通講演会開かれる

去る十月三十一日に日本大学商学部教授の真屋尚生先生による「交通事故を起こしたら」という講演会が開かれた。

一九八九年の全国の交通事故死者は一万一千人にものぼっており、最も交通事故にあいやすい年齢は十六～二十四歳と六十五歳以上だそうだ。この年齢層の中には高校生も含まれている。南高は自転車通学者が非常に多いが、まだまだ交通マナーの大切さは理解されていない。この講演を通して、日頃の自分自身の交通マナーを少しでも振り返り、事故にあってしまった時の正しい知識を得ることができただろうか。

齲歯治療にも生活反映？

23HRの齲歯の治療率がついに一〇〇%になった。しかし、完全に治療し終わったクラスはいまだに全校でこのクラスただ一クラスだけだ。

わが校は齲歯の治療率が県平均よりも低い。他校の中にはすでにあと一〇%弱で治療を全員完了させてしまう所もあるのだが、わが校はあと三三%と随分多い。

夏休みがあったにもかかわらずこの治療率の低さ。齲歯の治療に限らず、わが校には、しなくてはならない事をなかなかしない傾向がある。時間の使い方が下手なのだろうか。今一度、自分の生活を反省してみたい。

編集後記

長いと思っていた二学期も、終わろうとしています。今回の南高新聞では、二学期に行われたいろいろな行事をとりあげてみました。

また、松井先生のイギリス短期留学や南高出身の有名人のことなどもとりあげています。

次号の南高新聞は、卒業を目前にひかえた三年生の座談会を企画しています。

では、次号の南高新聞でお会いしましょう！

コンタクトレンズの視力矯正は
良い製品と優れた技術に基づいて処方して下さい。
コンタクトレンズは、ハードで連続装用の時代。
Theコンタクトレンズ
メニコンEX
眼科医の指導のもとで「つけたまま眠れる」連続装用ハードコンタクトレンズ。
・酸素透過性はメニコンO_2の5倍。
・ハードタイプによる確かな視力矯正。
・最長一週間、連続装用可能。
・手入れ簡単、煮沸消毒不要。
★広告持参の方、学割有り。
メニコンO_2・32　プレス・オー
メニコンソフトM　ソフィーナ
●定休日／日曜・祝祭日
分割払いのメニコンクレジットも取扱っています。
浜松コンタクトレンズ
浜松市元城町219-20（市役所南筋向い）　駐車場完備
詳しいことはお電話で☎(053)453-3030

らんま1/2
うる星やつら
いつだってマイ・ダーリン

21日(土)より
中央ビル　中央2
製作：多賀英典
原作：高橋留美子
（小学館／週刊少年サンデー連載）
監督：井内秀治
㈱キティ・フィルム作品
協力：㈱タダノ／㈱アメニティメッセージ
配給：アルゴプロジェクト
午後よりターミネーター2上映

BOOK&RECORD
イケヤ文楽館 高台店
至三方原
国道257号線
至西インター

本・レコード・ビデオレンタルの店
BUN GAKU KAN
イケヤ文楽館　高台店
駐車場30台収容
夜11時まで営業
（年中無休）
イケヤ
本店　浜松市田町有楽街　(053)452-5151
鍛冶町店／文楽館高林店／文楽館高台店
磐田店／aiai磐田店／掛川店／袋井店／浜北店

次は君の番だ！

男女有志募集。

応援団